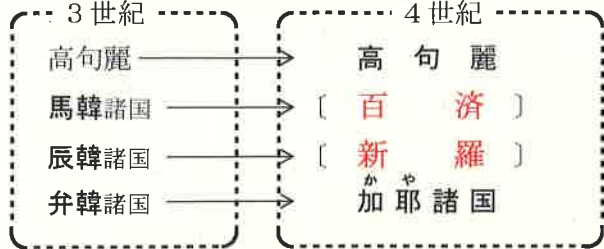


朝鮮半島情勢と日本

1. 古墳時代の朝鮮半島

Q 1. 右の地図中空欄の国名は何か。〔図表P. 2〔2〕→図表P. 2〔3〕〕



2. 中国・朝鮮との交渉

☆中国史書の中には4世紀の日本に関する記述がない。「謎の4世紀」

→それを補う貴重な史料が朝鮮に存在〔図表P. 45〔1〕⑩; 史料〔4〕〕

Q 2. かつての高句麗の中心地・丸都にある、その史料とは?

A 2. 1 高句麗好太王 (広開土王) 碑

Q 3. 内容は? A 3. 2 4世紀 終盤以降、高句麗と倭との間で対立が起こった。

〈5世紀〉再び中国史書に日本の王に関する記述が復活。その史書とは…

【3 『宋書』倭国伝 (編者: 沈約)にみる日本】〔図表P. 45〔2〕; 史料〔5〕〕

◇讃・珍・濟・興・武の五人の王が中国南朝の宋に遣使していた。

※この史料に記されているのは、五王の一人である倭王・4 武 が中国皇帝に差し出した国書 (上表文) である。

Q 4. この国書が中国にもたらされたのは何年? A 4. 順帝の昇明二年 (=西暦5 478 年)

Q 5. 上表文には、卑弥呼とは違うイメージのリーダーの姿が描かれている。どんなタイプのリーダー?

A 5. 卑弥呼のような衆を感せず呪術的なリーダーから、自ら戦場に出る6 武人的 リーダーへ。

Q 6. 中国皇帝は武に対してどのような称号を授けた?

A 6. 「使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事7 安東大將軍 倭王」

◇ この時期の日本にとって、朝鮮半島との外交にはどのような意義があったのか、そのような問いに対する一つの解答が、図表 P. 45〔1〕⑩の下にある解説文〈馬青 (馬にかぶせる兜) の横です〉の中に記されています。当時の日本は鉄鉱石や砂鉄から鉄を製造する技術がなく、鉄そのものを手に入れるしかなかったのでしょう。この解説文の最後の二行にはマーカーで印を入れておきましょう。

◇ 「日本史理型No. 6ガイド」などを参考に自分でNo. 6を学習したときに、教科書はちゃんと読んだでしょうか?

乗馬の技術は四世紀後半以降の高句麗との戦闘の中で伝えられたと書いてありましたね。古墳時代中期 (4世紀末~5世紀) 以降の副葬品に馬具が多くなるというNo. 5の記述につながるものです。生物学的 (遺伝子的) にも日本の在来種の馬は古墳時代にモンゴルから朝鮮半島経由で入ってきたようで、弥生時代以前に馬は存在しなかったようです。図表の史料では割愛されていますが、『魏志』倭人伝には「その地 (倭) には牛・馬・虎・豹・羊・鶻なし…」と記されていて、実際に馬だけでなく牛や羊などの伝来も古墳時代以降のことと考えられています。

◇ 「倭王武の上表文」の中で武は、「昔より祖禰躬ら甲冑を擐き、山川を跋涉して寧処に違あらず。(私の祖先は王自ら甲冑をつけて山川を駆け回り、休む暇もなく全国を統一しました)」と自負をもって祖先の功績を報告しています。すでに馬上から指揮をしていたのかもしれませんが。呪術的なカリスマから軍事的なカリスマへの支配者像の変化が感じられます。